

職場復帰支援プログラム計画書

岐阜県教育委員会教育長 様

所属長



下記のとおり職員の復帰プログラムを実施しますので、計画書を提出します。

所属		職名		氏名	
疾 患 名					
医療機関及び主治医名					
復 職 希 望 日	年 月 日				

復帰プログラム予定期間	年 月 日から 年 月 日まで (日間)				
復帰プログラム実施場所					
復帰プログラムの内容 第 段階 (年 月 日～ 年 月 日) 第 段階 (年 月 日～ 年 月 日) 第 段階 (年 月 日～ 年 月 日) 第 段階 (年 月 日～ 年 月 日) 第 段階 (年 月 日～ 年 月 日)					
本人・家族への説明	年	月	日	本人署名	
主治医の了承を得た日	年	月	日	確 認 者	

3 復帰プログラム計画書・報告書の記載例

第2号様式

平成26年4月20日

職場復帰支援プログラム計画書 記載例

岐阜県教育委員会教育長 様

所属長 ○○ ○○ 印

下記のとおり職員の復帰プログラムを実施しますので、計画書を提出します。

所属	○○高等学校	職名	教諭（国語科）	氏名	○○ ○○
疾患名	うつ病				
医療機関及び主治医名	○○メンタルクリニック ○○ ○○医師				
復職希望日	平成26年10月1日				

復帰プログラム予定期間	平成26年5月9日から平成26年7月11日まで 40日間		
復帰プログラム実施場所	○○高等学校	実施日の実日数の総数	教諭の場合は、プログラム後半が長期休暇に掛からないように計画を立てるとよいでしょう。
復帰プログラムの内容	<p>第1段階（平成26年5月9日～平成26年5月13日）2日間</p> <p>目標：通勤に慣れるとともに、職場の雰囲気を味わう。 勤務日及び時間：5/9, 5/12 午前10時から12時まで2時間 勤務内容：簡単な校内事務を行う。 同僚や上司と会話をする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">本人の状況によって、日数を増やしゆっくり開始してもかまいません。</p>		
	<p>第2段階（平成26年5月14日～平成26年5月25日）5日間</p> <p>目標：職場の雰囲気に慣れる。 勤務日及び時間：5/14, 5/16, 5/19, 5/21, 5/23 午前8時30分から12時30分まで4時間 勤務内容：教材研究を行う。 学年会、教科会等に参加する。 学校内の巡回</p>		

第3段階（平成26年5月26日～平成26年6月11日）8日間

目標：勤務時間に慣れるとともに、職務に慣れる。
 勤務時間：通常勤務（8時30分から17時15分）
 5/27, 5/30, 6/1, 6/3,
 6/6, 6/8, 6/9, 6/10
 勤務内容：補習などが有る場合は、授業参観をする。
 SHR参観をする。
 同僚と教科の授業準備をする。
 職員研修や職員会議に参加する。

職種（事務職員・学校事務員等）によっては、復職後の職務を想定し実施可能であれば、5段階に縛られることはありません。

第4段階（平成26年6月16日～平成26年6月27日）10日間

目標：復職後の職務に慣れる。
 勤務時間：週5日間 通常勤務
 勤務内容：教材研究を行う。
 古典の授業の補助（TT）を行う。
 現代国語（2年）及び古典（1年）の授業準備を実施する。
 LHR参観をする。
 復帰プログラム第5段階の授業の単元計画を立てる。

第5段階（平成26年6月30日～平成26年7月11日）15日間

目標：復職後の職務に慣れる。
 勤務時間：週5日間 通常勤務
 勤務内容：古典（1年）の授業を実施する。
 現代国語（2年）の授業を実施する。
 1日3～4時間の授業を実施する。
 体育祭の準備を手伝う。

第5段階は、復職後の通常勤務を想定した内容にしてください。
 円滑な職場復帰をおこなうために、ここでの実施が本人の自信にもつながります。
 また、これまでの実施状況を元に、所属長は復職に向けての見極めを行ってください。

※教科主任、学年主任、校長、教頭 の指導を受ける。

復職後の勤務を想定した授業時間数として計画を立ててください。

本人・家族への説明	H26年4月15日	本人署名	〇〇 〇〇
主治医の了承を得た日	H26年4月18日	確認者 (管理職)	〇〇 〇〇

計画書を主治医に了承を得る際は、所属長（管理職）も同行し確認をしてください。
 本人の体調変化など不測の場合の連絡方法など確認しておくとい良いでしょう。